第９回国際土木委員会
資料２

第８回 国際土木委員会　議 事 概 要

１．開催日時　　：2020 年 12 月 17 日（木）　13：00～14：00
２．場　　所　　：JACIC 第 1 会議室（Web 会議形式）
３．出 席 者　　：別紙参照

４．議事概要
（１） 委員長挨拶
（２） バーチャルサミットの報告について
10 月 26 日から 11 月 6 日開催のバーチャルサミットについて bSJ より下記の報告があった。
① 全体会議とプレゼンテーション
・バーチャルサミットは参加者が 850 名程度であった。
・IFC4.3 規格には、８つの分野のうち、土木分野が７つを占める。
・Digital Twin-Consortium と buildingSMART International が MoU を交わした。
・技術的な動向（CDE 展開や IFC に対する JSON の利用）などの報告。
・日本からの bSI メンバー参加は Multinational に３社、Standard に２社。Multinational には鹿島、清水、大林の３社。Standard には応用地質と竹中がメンバーになっている。
・新チャプターには、UAE とセルビアが参加し、アメリカの支部が改めて活動を開始した。

② インフラルーム及びレールウェイルームの動向
【インフラルーム】
・IFC4.3 は 2021 年の夏頃にファイナルスタンダードになる投票が予定されている。
・IFC5 と IFC4.3 の関係性について、いままでの IFC5 と IFC4.3 は中身がほぼ同じことを確認した。
・プロパティ（属性情報）の整合として、各分野の属性情報の重複の削除や共通化を進めている。
・IFC4.3・IFC5 をベースとして、さらに ISO 及びアメリカ、中国の BIM 規格をカバーするようなプラットフォームを構築した上でデジタルツインの基盤とする計画があった。
・レールウェイルームにおいては、V 字型の開発と計画という概念を用いて実装テストを行っており、ヨーロッパの代表的な鉄道事業者が参加している。そこにソフトウェアベンダーが現時点から参加して、この IFC を鉄道分野に展開する活動を行っている。
・次回のサミットも今回同様にバーチャルサミット形式で開催し、期間は 2021 年の 3 月 15 日から 26 日を予定している。

③ トンネルプロジェクトに関する動画の紹介
・エキシビションホールで提供されていたトンネルプロジェクトに関する動画の紹介。計画と実際の施工を３次元モデルに時間軸を加えて４次元モデルで工程管理し、さらにコスト軸を加えることで５次元モデルでの原価管理、コスト管理を可能としている。

（３） その他
特になし。